

小学校における英語絵本の読み聞かせの研究

—担任が無理なく取り組める手法を探る—

調査研究部 英語ユニット

吉村美幸 吉田朋世 今井信義 福島安希子

福井県は、平成30年度に国に先行して小学校英語の教科化を実施する。それに向けて、福井県教育委員会は、平成28年度から「学校で取組む小学校英語教育推進『スクラム』プロジェクト」を導入した。これは、「学校全体で英語に親しむ環境を整え、小学校1年生から日常的に英語に親しむとともに、小学校教員の英語力・指導力の向上を図る」ことを目的としており、現在、県内全ての小学校で実施されている。英語ユニットは、「スクラム」プロジェクトの柱の一つである英語絵本の読み聞かせに主眼を置き、研究協力校での実践を通して、担任が無理なく取り組める読み聞かせの手法を探った。また、研究から得られた成果を基にして、「英語の絵本活用リスト」を作成した。

〈キーワード〉 小学校、英語絵本、読み聞かせ、「英語の絵本活用リスト」

I はじめに

平成23年度に小学校外国語活動が必修化されてから6年が経過し、いよいよ平成32年度から外国語科として、英語が正式な教科になることが決定した。小学校での英語は、英語のスキル指導が中心ではなく、コミュニケーション能力の育成を重点に置いているので、ALTや専科教員だけに任せるのではなく、児童の実態を把握している学級担任が授業を行うことが求められている。しかし、「自分の英語力に自信がない」「読み聞かせと言っても、どのような英語絵本をどのように読めばいいのか分からない」と悩む小学校教員は多い。教員自身の英語力・指導力を向上するためにも、英語絵本の読み聞かせは有効であるが、読み聞かせの手法や絵本の選定についてはまだ情報が少ないのが現状である。そこで、小学校教員が英語絵本の読み聞かせをする際の一助となればと思い、今年度の研究に取り組んだ。

II 研究の概要

1 研究の目的

本研究の目的は以下の2点である。

- (1) 児童が英語に慣れ親しむ手段として、効果的な読み聞かせの方法を探ること。
- (2) 児童の学年、発達段階に応じた絵本を選定すること。

2 研究の方法

- (1) 2校の研究協力校で英語絵本の読み聞かせを行い、効果的な手法や留意点を探る。
- (2) 5年生の児童対象にアンケート調査を行い、読み聞かせを半年続ける前と後とで児童の変容を調べ、児童の興味関心、発達段階に合った絵本の選定に活かす。
- (3) 英語絵本の選定に役立てるよう、「英語の絵本活用リスト」を作成する。
- (4) 小学校教員対象に「英語絵本の活用研究会」を開き、得られた成果を報告、共有する。

3 研究内容

(1) 研究実践の概要

研究実践期間は、平成28年6月から12月までの半年間で、福井市内の小学校1校（A小学校）と坂井市内の小学校1校（B小学校）に研究協力をお願いした。

A小学校では、5年生の学級担任が、自分のクラス（34名）で計7回、不定期に読み聞かせを行い、英語ユニットが参観に行った。児童対象のアンケートは、6月、7月、10月、12月の4回実施した。後日、事後検討と次回の事前検討を兼ねた打ち合わせを行った。読み聞かせとアンケートは朝学習の時間に実施したので、その時間、他のクラスでは計算問題や漢字学習など通常の朝学習の活動をしていった。

B小学校では、5年生の学級担任が、自分のクラスではない3年生から6年生までの4クラス（22名～33名）で、飛び込みで計7回実践した。内訳は、3年生1回、4年生1回、5年生4回、6年生1回である。この学校では週に1回、朝の時間に全校で読み聞かせを行っている。全校各クラスで日本語の絵本の読み聞かせをしている時間を利用して、実践者の先生には英語絵本の読み聞かせをお願いした。そのうちの7回を英語ユニットが参観した。アンケートは5年生を対象に、4回読み聞かせをした内の6月、11月、12月の3回実施した。実践者の先生とのやり取りは主にメールで行った。

両校の実践から得られた成果を基にして、英語ユニットで「英語の絵本活用リスト」を作成した。

(2) 読み聞かせで使用した絵本

両校の読み聞かせで使用した絵本は、次の15冊である。

	題名	著者名	出版社名
1	Bark, George	Jules Feiffer	HarperCollins
2	COLOR SURPRISES	Chuck Murphy	Little Simon
3	Dear Zoo	Rod Campbell	MACMILLAN
4	FIVE Little MONKEYS jumping on the bed	Eileen Christelow	HMH Books
5	From Head to Toe	Eric Carle	HarperFestival
6	GO AWAY, BIG GREEN MONSTER!	Ed Emberley	LB kids
7	Ketchup On Your Cornflakes?	Nick Sharratt	Scholastic
8	Me Myself	(著)Mikiko Nakamoto (絵)Hideko Kakegawa	アプリコット
9	My Pet	(著)Mikiko Nakamoto (絵)Ryoko Fujikawa	アプリコット
10	No, David!	David Shannon	Scholastic
11	Pete the Cat	(著)Eric Litwin (絵)James Dean	HarperCollins
12	Shark in the Park!	Nick Sharratt	David Fickling Books
13	What's in the Witch's Kitchen?	Nick Sharratt	CANDLEWICK PRESS
14	What's this?	(著)Mikiko Nakamoto (絵)Hideko Kakegawa	アプリコット
15	Where's Spot?	Eric Hill	PUFFIN

(3) 事前アンケートより

両校とも、6月1回目の読み聞かせ前に、実態把握と意識調査のためのアンケート（資料1）を実施した。A小学校は5年生1クラス34名、B小学校は5年生1クラス26名対象である。

資料2 「英会話教室や英語塾等、またはテレビの語学番組等で英語を学習したことがありますか」と英語学習歴を尋ねる質問項目に関しては、2校を比べると、B小学校の方が英語に触れたことのある児童が多く、6割近くいた。英語を学習した場所は英語塾・英会話教室が1番多く、次いで家でタブレットやパソコンの使用が多かった。

資料3 「家族に英語の絵を読んでもらったり、英語の絵本の読み聞かせ会などに参加したりしたことがありますか」と読み聞かせ経験を尋ねる質問項目に関しては、両校合わせて、「家でお母さんに」が3人、「家でお父さんに」「図書館で」「アメリカで先生やお母さんに」が各1人と、経験者は合計6人であった。両校とも、これまでほとんどの児童が、英語の絵本を読んでもらった経験はないことが分かった。

外国語及び英語絵本への興味について尋ねた意識調査については、「(5) 事後アンケートより」の項目で後述する。

資料1 外国語活動に関するアンケート

外国語活動に関するアンケート（小5、初回）
 ()年()組()番

このアンケートはみなさんの外国語活動に関する意識を調査するものです。通知表とは関係ありませんので、正直に答えてください。

1) 当てはまるものに○をつけましょう。

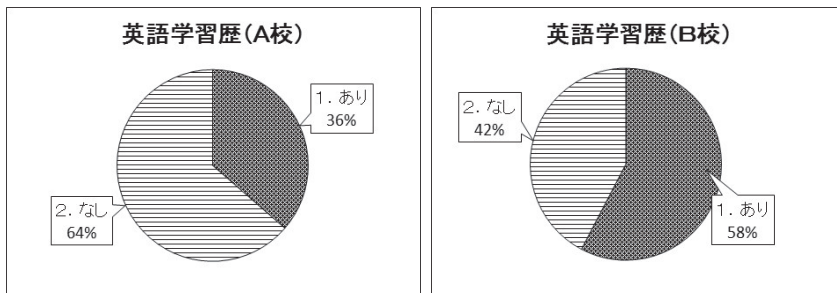
ア) 英会話教室や英語塾（くもん、学研など）または、テレビ等の語学番組で英語を学習したことがありますか。
 ①はい（どこで？どのくらい？） ()
 ②いいえ

イ) 家族に英語の絵本を読んでもらったり、英語の絵本の読み聞かせ会などに参加したりしたことがありますか。
 ①はい（どこで？だれに？） ()
 ②いいえ

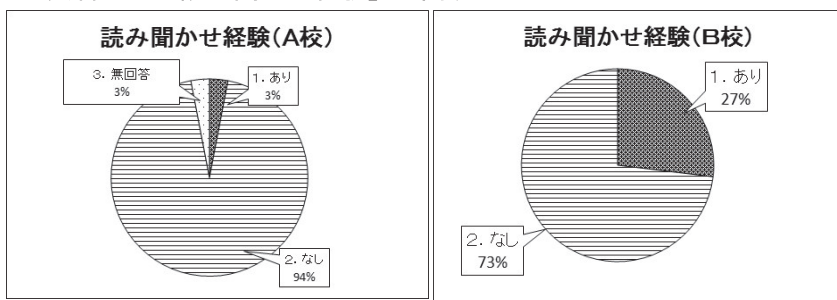
ウ) 英語や他の外国語に対する興味はありますか。
 ①とても興味がある ②興味がある ③あまり興味がない ④まったく興味がない

エ) 英語の絵本に興味はありますか。
 ①とても興味がある ②興味がある ③あまり興味がない ④まったく興味がない

資料2 「英語学習歴」に関するアンケート



資料3 「読み聞かせ経験」に関するアンケート



(4) 実践例

全15冊の実践の中で、先生の絵本の読み方や工夫が児童の理解を助けたり、児童の反応を引き出したりするのに効果的だった絵本2冊を実践例①と②、反対に先生の絵本の読み方や工夫が児童の発達段階に合わず、期待したような反応が見られなかった絵本1冊を実践例③として挙げる。

① “Bark, George”

この絵本は、「ワン」と鳴かない子犬のジョージを心配して、母犬がジョージを医者連れて行くというお話である。ジョージの体の中から動物が出てくるという意外性に、高学年の児童も引きつけ

られる。ストーリーにも絵にも力があり、大人が読んでもおもしろい絵本である。両校どちらの実践でも、児童は先生の話すことを静かに聞き、話がどのように展開するのか興味津々の様子で集中しており、ジョージの体内から他の動物が出てくるたびに、「えーっ」と驚きの声が上がった。いつもは消極的な男子も食い入るように絵本を見ており、終わった後も近くの児童と興奮した様子で感想を伝え合っていたのが印象的であった。

読み聞かせの導入では次の三つの工夫が見られた。

- ・“Bark, George” というタイトルの意味が、まず児童には分からないので、ずばり一言、「ワンって言いなさい、ジョージ」と命令形で日本語を与えた。児童は、犬が「吠えなさい」と言われているのだと理解し、絵本の内容を理解するきっかけになった。
- ・英語でのさまざまな動物の名前や鳴き声を児童が知らない場合は、読み始める前に、絵カード等でおさえておくこともできる。A小学校では、動物のイラストと鳴き声がかかれた絵カードを使ってまず児童とやり取りをし、その絵カードを黒板に貼っておいた。本文に入り、ジョージがおかしな鳴き声を出すところで、先生がさりげなく絵カードを指さすことで、児童の理解を助けていた。
- ・絵を指し示して、丁寧に主要な登場人物を紹介した。表紙を見せ“*This is George.*”と主人公がジョージという名前であることを知らせ、ページをめくり、“*This is George’s mother.*”と母犬を紹介した。

読み聞かせの中盤では、次の三つの工夫が見られた。

- ・読み手である先生が、登場人物の心情に合わせ、顔をしかめたりニコニコ笑ったりと、表情を変えていた。また声に強弱をつけたり、声色を変えたりした。
- ・ジェスチャーを多用した。母犬がジョージに、「ワンって言いなさい」という場面では、手をさしのべてジョージに吠えさせようとしている様子を表したり、獣医が他の動物を引っ張り出す場面では、手袋をはめ、手を伸ばし、ジョージの口の奥深くまで手を差し込む様子を、体全体で表現したりした。英語が分からなくても、先生を見ていると、内容理解のヒントがたくさん隠されていた。
- ・伝わりにくい表現を易しい表現に置き換えた。“*George’s mother was so thrilled.*”の“*thrilled*”を“*happy*”に換えたり、本文にはない“*Thank you.*”を付け足して、母犬が獣医に感謝している様子を分かりやすくしたりした。

読み聞かせの終末では、次の工夫が見られた。

- ・最後の場面でジョージがどう鳴くのか、児童に予測させた。母犬に「ワンって言いなさい」ともう一度促されたジョージについて、「何て言うと思う？」と児童に問いかけ考えさせた。その後、結末の部分を読み、ジョージが“*Hello!*”と言う意外な展開を児童がより理解できるようにした。

② “What’s in the Witch’s Kitchen?”

魔法の台所には何があるのか、しかけをめくって見ていく絵本である。ストーリー性を楽しむというよりは、めくる向きによって同じ所から違うものが出てくるので、何が出てくるのかわくわくしながら読み進められる楽しい絵本である。絵が鮮やかな色で描かれているので、読み始める前から児童は大変興味を示しているのが分かった。先生が言わなくても、絵からハロウィーンの時期の絵本だと気付いている児童もいた。児童は、台所にある物から、一体何が出てくるのだろうと推測力をかき立てられ、ページが進むにつれて発言が増える様子が見られた。先生も児童の発言に対して、“*Oh!*” “*Wow!*” “*Yeah, that’s right!*”と元気よく反応を返していた。ただ、低学年は最後の魔法が飛び出す場面を怖がることもある。高学年では“*goblin’s pee* (鬼のおしっこ)”や“*rabbit plops* (ウサギのうんち)”という言葉や絵を嫌う児童もいた。この絵本はB小学校で次ページのような工夫をし

ながら読み聞かせをしたところ、児童の反応がとてもよかったので、A小学校でも同じように進めた。読み聞かせの導入では次の二つの工夫が見られた。

- ・表紙の絵を見せてタイトルを読み、この絵本を読むに当たって知っておくべきキーワード、“witch”と“kitchen”の意味を児童に問い、確認した。
- ・「何があるんだろうね、ノックノック」とドアをノックするジェスチャーを見せて、ページをめくる楽しさを持たせた。

読み聞かせの中盤では、次の四つの工夫が見られた。

- ・先生は児童とのやり取りを中心に読み進めた。まず、ページをめくる度に“What’s this?”とそこに描かれている物を尋ね、児童のつぶやきを拾いながら“Yes, it’s a cold box, a fridge.”というように簡単な英語で答えを確認した。次に、“Open it left or open it right?”を読み、右か左、どちらを見てみたいか挙手をさせた。そして多かった方から順に開き、チーズが出てくると、“Oh, tasty cheese. 食べたい？ Do you like cheese?”というように、やり取りを続けた。
- ・先生が“goblin’s pee”の出てくる場面で声を低くしたり、スープが隠れている場面で飲む真似をしたりして、児童が理解しやすいようにした。
- ・本文には難しい表現や単語が使われているところがあるが、その部分にある“smiling（ほほえむ）/frown（しかめっつらをする）”のような2つの表情を両面に印刷した絵カードを見せて、視覚的に支援した。
- ・ベークドビーンズやマカロニの缶詰など、外国特有の食べ物が出てくる場面では、写真を見せながら説明した。

読み聞かせの終末では、次の工夫が見られた。

- ・最後のページまで読み終えた後、もう一度最初のページから、何が隠れていたかを英語でやり取りしながら確かめた。

③ “From Head to Toe”

この絵本は、11種類の動物が次々と出てきて、得意のポーズで「この動き、できる？」と子どもに問いかけ、子どもが「できるよ！」と答えるお話である。体のパーツや、動きを表す表現、例えば“arch my back（背中を丸める）”、“bend my knee（膝を曲げる）”、“wiggle my toes（つま先をぴくぴく動かす）”などを知ることができる。幼児用英語図書として一般的に大人気の絵本だが、この実践クラスの5年生には内容が幼すぎたようで、期待したような児童の反応は見られなかった。

先生は、「さあやってみよう」「先生のまねをしてみよう」「I can do it.」「You can do it.」と声をかけ、児童に動作化を促したが、児童は友達目を気にして恥ずかしそうにしており、あまり体を動かさなかった。先生も大型絵本（ビッグブック）を膝の上に置いて読まれていたので、動作がしにくそうだった。特に大型絵本は、ブックスタンドがあると両手が空いてジェスチャーがしやすいことが分かった。

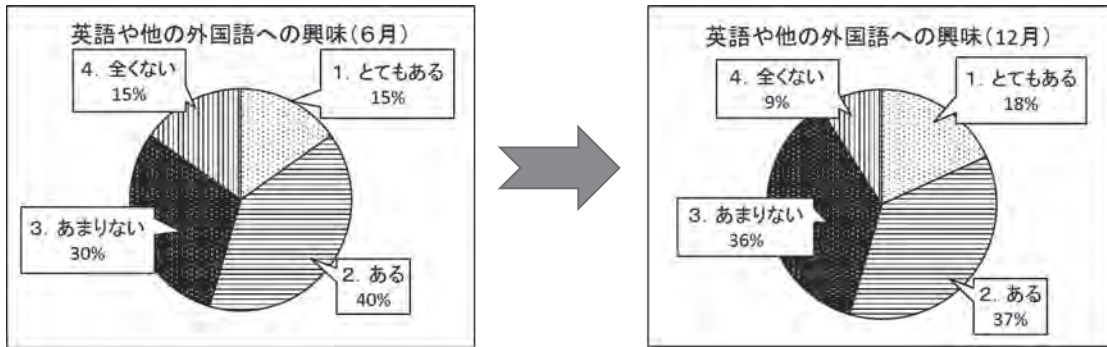
また、先生は新しいページを読み終わる度に最初のページに戻り、動物の名前と動作を順に振り返るようにしたが、児童は早く先を読みたい様子で、反応は弱かった。最後のページまで通して読み終えてから、もう一度最初のページに戻るとよかったのかもしれない。1ページにあまり時間をかけすぎないことも大切だと分かった。

しかし、読み聞かせ後、机や椅子を戻すときに、“bend my neck”と口ずさんでいる児童もおり、英語の音声が耳に残る絵本だと感じられた。体を動かすことが好きな低・中学年に合っていると思われる。

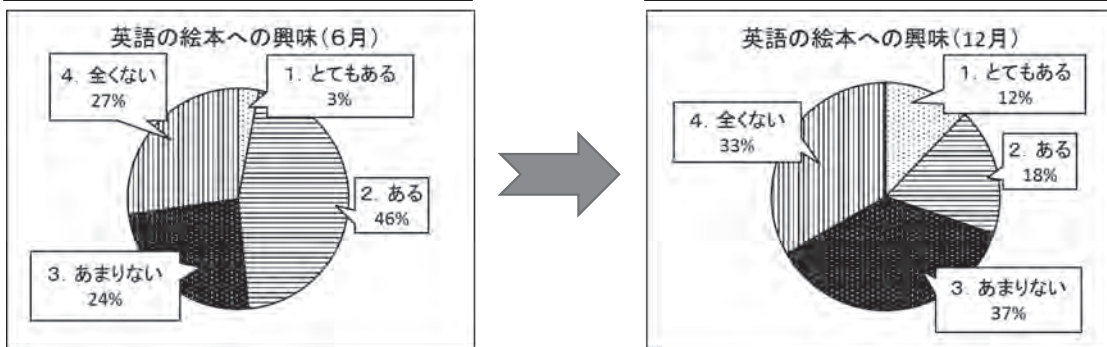
(5) 事後アンケートより

6月（読み聞かせ実践前）と12月（読み聞かせ実践後）に行ったアンケートの結果を比較する。**資料4**は、「英語や他の外国語に対する興味はありますか」と外国語への興味を聞いたもの、**資料5**は「英語の絵本に興味はありますか」と英語の絵本への興味を聞いたもので、いずれもA小学校の結果である。

資料4 「英語や他の外国語への興味」に関するアンケート結果（A小学校）



資料5 「英語の絵本への興味」に関するアンケート結果（A小学校）



A小学校では、外国語への興味が、「とてもある」「ある」と肯定的に答えた児童の比率と、「あまりない」「ない」と否定的に答えた児童の比率は、それぞれ55%と45%で、6月と12月で変化が見られなかった。英語の絵本への興味に関しては、「とてもある」と答えた児童は3%から12%に増加したが、「ある」と答えた児童は46%から18%に減少し、「あまりない」「ない」と答えた児童は合わせて51%から70%に増加した。

この要因としては、まず、絵本の選定が偏ってしまったことが考えられる。毎回の打ち合わせで次の絵本を選ぶ際に、「この絵本ならどう導入するか、どう扱うか」と、読み聞かせの手法に気を取られ、動物を扱った絵本ばかりに偏ってしまった。最初は、「今日はどんな本を読むのだろう」と期待していた児童も、いつも同じような素材の話で飽きてしまい、興味が失われていったのではないかと推測される。

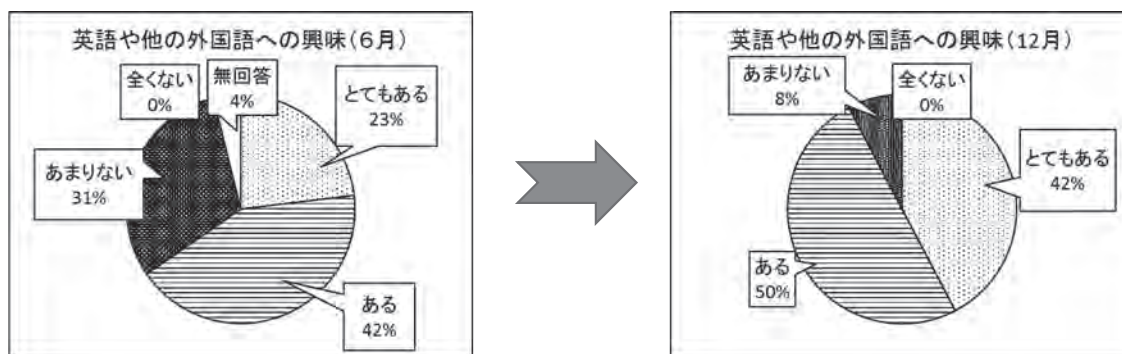
また、5年生は外国語を学び始めたばかりということもあり、その点を考慮して教育研究所で用意した絵本が、幼い子ども向けのシンプルなものばかりになっていて、5年生の発達段階にあっていなかったことも要因だと考える。この結果から、英語に興味がない児童もぐっと身を乗り出すような、知的好奇心をくすぐる内容の絵本を選ぶことが大切だと分かった。

児童の普段の様子を、一番よく理解している担任の先生が読み聞かせをするのであれば、そのときそのときの状態にあわせ、臨機応変に対応することの必要性も感じた。児童の反応がよくないときには手段にこだわらず、さっと読んで「はい、おしまい」と終わらせることもあるだろう。英語に興味

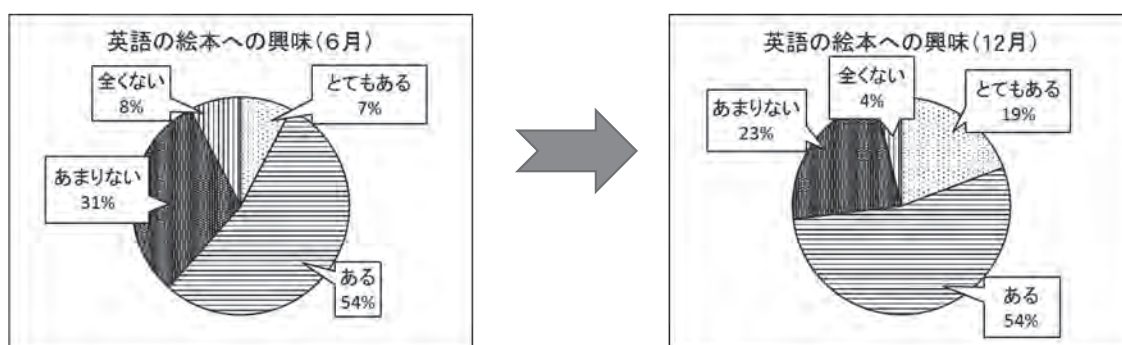
がない児童は、「英語が分からない」「どうせ英語を習っている子だけ分かるのだろう」と不安な気持ちを抱えている。不定期に取り組むよりも、「今年は、毎月1回は英語の絵本を読みます」「5年生はどのクラスもやります」と、学年や学校全体で計画を立て、そのことを年度始めに児童に伝えて、英語の絵本の読み聞かせを習慣づける方法も考えられる。しかし、児童に「英語が分からなくても慣れる」と無理強いすることのないようにしなくてはならない。

次の資料6と資料7は、いずれもB小学校の結果である。

資料6 「英語や他の外国語への興味」に関するアンケート結果（B小学校）



資料7 「英語の絵本への興味」に関するアンケート結果（B小学校）

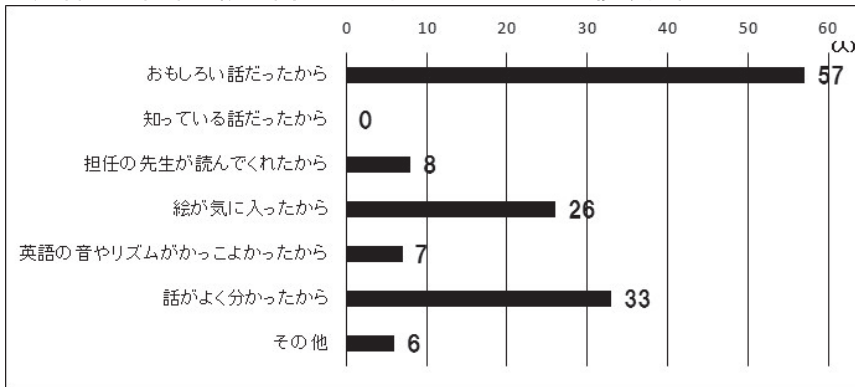


B小学校では、外国語に対する興味が、「とてもある」「ある」と肯定的に答えた児童の比率は、65%から92%に増加した。全体の9割を占めている。また、英語の絵本への興味が「とてもある」「ある」と答えた児童は61%から73%に増加した。

この要因としては、B小学校では、事前アンケートで分かったように、5年生の6月までに英語に触れる機会があった児童が6割近くいたことに加え、学校全体で読み聞かせの環境が整っていたことが挙げられる。週1回の全校読み聞かせの日には、低学年の児童も高学年の児童も、みな当たり前のように体操座りで床に座り、絵本を読んでもらうのを楽しみに待っている。その日の朝は、どのクラスでも読み聞かせをするので、放送が入ったりチャイムが鳴ったりすることがない。児童は、英語の絵本だからと緊張することなく、いつも通り、読み聞かせに集中できたのではないかと推測できる。

B小学校では、そのような環境の中で英語絵本の読み聞かせを行ったことにより、英語や英語の絵本に対する興味が高まるという一定の成果があったと推測される。

資料 8 絵本の読み聞かせが楽しかった理由（複数回答）

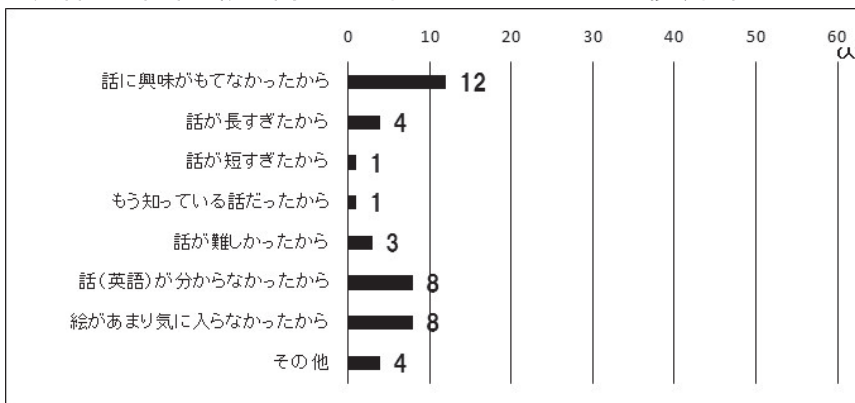


資料 8 は、「今日の絵本の活動はどうでしたか」という質問項目に、「楽しかった」「まあ楽しかった」と肯定的に答えた児童に、複数回答でその理由を尋ねた結果であり、両校の回答を単純に足したものである。一番多かった理由は、「おもしろい話だったから」次に「話がよく

分かったから」3番目は「絵が気に入ったから」となった。絵本を楽しいと感じるには、当然のことだが、絵本の内容がおもしろく、よく分かることが第一であることが明白となった。

その他の理由としては、「先生がクイズのように読んでくれたから」というような、先生の読み方に関するもの、「次に何が出てくるのかワクワクしたから」「いろいろなペットがいて、かわいかったから」というような、お話の内容やイラストに関するものがあった。

資料 9 絵本の読み聞かせが楽しくなかった理由（複数回答）



資料 9 は、「今日の絵本の活動はどうでしたか」という質問項目に、「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」と答えた児童に、複数回答でその理由を尋ねた結果であり、これも両校の回答を単純に足したものである。一番多かった理由は、「話に興味をもてなかったから」、次に多かったのが

「話が分からなかったから」「絵があまり気に入らなかったから」であった。

この結果は、資料 8 の結果の裏返しであり、児童の発達段階や興味関心に合う絵本を選ぶことがやはり大事だと分かった。また、児童が内容が理解できないときに、ヒントを与えたり児童とやり取りをしたりする中で、児童が類推できるように、読み手が手立てを講じる必要があることも分かった。

その他の意見に、「本の内容は楽しかったが、自分がいる角度から見ると、光が当たって見えなかった」というものがあった。全ての児童にとって見えやすいように、絵本の見せ方に気を配る必要がある。「分かったことや感じたことがあれば書いてください」という自由記述欄に書かれていたのは、そのアンケートをした日に読まれた絵本の内容に関するものがほとんどだった。「英語はおもしろい」「外国ではやっているものや色々なものの英語の言い方が分かったのでこれから使えるときに活用していきたい」と前向きな意見がたくさんあった。最初は、「何を言っているか分からないし、字も読めない」と書いていたが、そのうちに、「読み聞かせは意外におもしろいことが分かった」と答えるようになった児童もいた。

4 研究の成果

成果は大きく三つあった。一つ目は、絵本の読み聞かせの様々な手法が明らかになったこと、二つ目は、読み聞かせをする際の留意点が明らかになったこと、三つ目は、実践を通して見えたものを「英語

の絵本活用リスト」にまとめることができたことである。それぞれについて、以下に詳しく述べる。

(1) 絵本の読み聞かせの様々な手法

必ずしも全ての絵本に共通ではないが、明らかになった読み聞かせの手法を10点挙げる。そのうち①～⑦は児童にあらすじや話の展開を類推させるための手法、⑧～⑩は児童参加型の雰囲気作りのための手法である。

- ① 導入で、表紙の絵を使って児童とやり取りをする（“What can you see?” “How many?” など）。ただし、クイズの答えやヒントが表紙に隠されているような場合は除く。
- ② 導入で、児童があらかじめ知っておくとよいキーワード、例えば登場人物の名前や、日本ではなじみのない表現などに触れておく。
- ③ 絵を指し示しながら、登場人物の紹介を丁寧にする。
- ④ 読み聞かせる際、先生はジェスチャー、表情、声色、言い換えなどを工夫し、安易に本文を日本語に訳さない。
- ⑤ ページのめくり方を工夫する。ゆっくりめくる、一瞬だけ見せてすぐ隠すなど、様々なめくり方がある。ただし、1ページにあまり時間をかけすぎない。
- ⑥ 途中で、次を予測させる質問も入れる（“What is going to happen next?” など）。
- ⑦ 同じ本でも、低学年と高学年では読み方や工夫を変える。
- ⑧ 先生が英語で発問する（Yes/ Noで答えられる “Do you like～?” や “Can you～?”、絵から答えを見つけやすい “What’s this?” “Where is it?” など）。
- ⑨ 児童は日本語でのつぶやきも良いこととし、英語で話さなければならないというプレッシャーを与えない。
- ⑩ 先生は児童全員に目を配り、児童の反応を拾うようにする。

(2) 読み聞かせをする際の留意点

明らかになった留意点として、次の三つが挙げられる。

- ① 事前に部屋の環境をチェックする。
その日の天候や絵本の材質によって、絵本のページが光って見えにくいことがあるので、カーテンを閉めるなど、事前に環境をチェックする。
- ② 児童の座らせ方や、教材提示装置の使用を考える。
後ろや端に座る児童にも本がよく見えるように、人数の多い学級では、特に児童を中央につめて座らせる。書画カメラで絵本を写したり、あらかじめ絵本のページをデジカメで撮影したり、スキャナーで取り込んだりして、スライドショーの形で児童に提示したりすることもできる。ただし、著作権法違反とならないよう、注意が必要である。
- ③ ブックスタンドを使用する。
両手が空いて、ジェスチャーがしやすくなる。絵本を持つ場合は、絵本を持ったまま何度も左右に揺らすと次のページのしかけが見えてしまったり、角度が変わりすぎて見えにくいことがあったりするので、揺らしすぎないよう気をつける必要がある。

(3) 「英語の絵本活用リスト」（資料10、11）の作成

「どんな絵本を選べばよいのか分からない」という先生方の声に応えられるよう、本年度の研究を経て、「英語の絵本活用リスト」を作成した。

リストの項目は、絵本の題名、サイズ、著者名、出版社名、価格、素材、内容紹介、種類、おすすめする学年、コメントの10項目である。価格は、今年度、研究所が購入した時点でのものなので、為替の変動により上下することがある。種類の項目では、物語、しかけ絵本、パターンブック（同じ表

現が何度も繰り返し出てくる本)、クイズ形式、リズム感、韻（ライム）という観点で分けている。これらの種類は、それぞれが独立しているわけではないので、いくつか併せ持っている絵本の場合は、それらを全て載せている。コメント欄には、その絵本を読み聞かせする際に気をつけるとよいこと、工夫できること、読み聞かせ後の展開例などを載せている。

資料10 「英語の絵本活用リスト」(一覧形式)

題名	サイズ(縦×横) (mm)	著者名	出版社名	新価格 (円)	素材	内容紹介	種類	学年
1 Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?	458 × 367	(著) Bill Martin, Jr. (絵) Eric Carle	LONGMAN	3,888	色、動物	動物が、次々と別の動物を紹介していくお話。purple cat, yellow duck, white dog など、カラフルな動物の絵と、英文のリズムが人気。	パターンブック クイズ リズム	低、中
2 From Head to Toe	463 × 343	Eric Carle	Harper Festival	4,428	動物、身体の名称 身体の動きを表す表現 助動詞 "can"	11種の動物たちが「この動きできる？」と子どもに問いかけ、子どもは「できるよ！」と答えるお話。Head, neckなど12種類の身体の名称やturn, raiseなど12種類の身体の動きを表す表現が出てくる。	パターンブック	低、中
3 Where's Spot?	244 × 260	Eric Hill	PUFFIN	1,296	場所の尋ね方 場所を表す前置詞 動物	母犬のサリーと一緒に、まだ夕飯をすませない子犬のスポットがどこにいるか探すお話。ドアの後ろやピアノの中など、フリップをめくると別の動物が隠れている。	しかけ絵本 パターンブック クイズ	低、中
4 Dear Zoo	408 × 410	Rod Campbell	MACMILLAN	4,428	動物 動物の特徴や性格を表す 形容詞	「ペットにする動物を連れてください」と動物園に手紙を出すと、いろいろな動物が箱に入って送られてくるお話。大きすぎたり、背が高すぎたりしてなかなかペットが決まらない。箱の部分がしかけになっていて、めくると動物が姿を現す。	しかけ絵本 パターンブック クイズ	低、中
5 A Beautiful Butterfly	380 × 420	(著) Mikiko Nakamoto (絵) A.P.PASCAL	アブリコット	3,456	色、昆虫	きれいな蝶になることを夢みるイモムシが、いろいろな色の食べ物を食べて成長していくお話。	パターンブック クイズ	低、中
6 What's the time, Mr. Wolf?	235 × 215	Annie Kubler	Child's Play	2,268	時刻の聞き方・答え方 1日の生活	「オオカミさん、今何時？」と朝起きてから夕飯まで1時間毎に問い、オオカミが時刻と合わせて「～の時間だよ」と答えていくお話。	しかけ絵本 パターンブック	低、中
7 BIG EGG	230 × 156	Mully Coxie	Paw Prints	2,340	動物、"Is it a ~egg?"	めんどりの産んだ卵の中にあつた、1つだけ大きな卵が、誰のものかを確かめようと、めんどりがいるいろいろな動物に尋ねていくお話。	物語 パターンブック	低、中

資料11 「英語の絵本活用リスト」(帳票形式)

No.1	Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?		
著者名	出版社名	価格	
(著) Bill Martin, Jr. (絵) Eric Carle	LONGMAN	¥3,888	
サイズ (縦×横) (mm)	素材	種類	対象学年
458 × 367	色、動物	パターンブック リズム	低、中
■ 内容紹介 ■			
動物が、次々と別の動物を紹介していくお話。purple cat, yellow duck, white dog など、カラフルな動物の絵と、英文のリズムが人気。			
■ コメント ■			
リズムを覚え、自然と口ずさむようになる。読み聞かせ初挑戦なら、まずはこの本がおすすめ。まらまら星などのメロディーにのせて歌うこともできる。版によって最後が"monkey, teacher, mama"の3種類ある。			
◀ ▶			

リストには、全ての絵本の情報を一覧形式にしたもの(資料10)と、一冊ずつの絵本の情報を帳票形式にしたもの(資料11)の2種類がある。どちらも福井県教育研究所ホームページの「英語ユニット」に掲載しているので、参照されたい。(URL: <http://www.fukui-c.ed.jp/~fec/>)

5 研究の課題

これらの実践を通し、読み聞かせの課題が五つ浮かび上がってきた。

(1) 児童数が多い時の、本の見せ方

小さめの絵本を使用する際に、できるだけ読み手の近くに児童を集めて座らせても、高学年は特に体が大きいので、後ろや端に座る児童に絵本が見えないことがある。そのような時、教材提示装置を使用して見せれば、後ろまで明瞭に見えるが、しかけ絵本の場合は、飛びだすワクワク感が薄れてしまうことがある。

(2) 日本語と英語の使用量のバランス

読み聞かせをする先生にとって、日本語と英語の使用量のバランスを取ることは難しく、つい日本

語で説明してしまいがちである。反対に、児童の日本語のつぶやきを英語で返そう、英語で発問してみようと思っても、とっさに英語が口から出てこないこともよくある。読み聞かせをする前に、先生は、児童に分かりづらいと思われるところをあらかじめ調べ、易しい表現に置き換えたり、落ち着いて読めるようになるまで十分に音読練習をしたりする必要がある。

(3) 児童の英語力と絵本の内容のギャップ

外国語活動を始めたばかりの5年生の英語力に合わせて絵本を選ぶと、英語圏では就学前の幼い子どもが読んでいるような絵本になり、内容が幼すぎることがよくある。反対に、ストーリー性のある絵本を選ぶと、英文が多かったり単語が難しかったりして伝わらないということがある。絵本の選定は慎重にしなければいけないと痛感した。今後、教科化になり児童がより英語に親しむようになれば、この課題は解決されていくかもしれない。

(4) 聞く態度の気になる児童への対応

担任の先生が読み聞かせをする場合、聞く態度の気になる児童に目が行き、思わず叱ってしまうことがある。読み聞かせの時間は楽しく進められるようにしたい。

(5) 読み聞かせの時間の環境づくり

放送やチャイム、校内電話などが入ることのない、絵本に集中できる読み聞かせの時間を全校で作れたら理想である。

6 英語絵本の活用研究会

12月末に、英語ユニットの研究アドバイザーである東京学芸大学の粕谷恭子教授をお招きして、「英語絵本の活用研究会」を行った。以下に、英語ユニットの研究で浮かび上がった課題に対する対応策と、英語絵本の読み聞かせの仕方や選定などについてご教授いただいたことを示す。

(1) 課題について

- ① 読み聞かせをするときは、児童を自分の席に座らせて行うか、自分の椅子だけもって先生の周りに集まらせるのがよい。児童を床に座らせると、姿勢が保てず、学びが起こらない。
- ② 大型絵本はページがめくりにくく、英語のリズムが崩れる。絵本が小さくても、先生が児童の近くを動けばよい。
- ③ 公教育でしか英語にふれない児童に合わせて進める。どうして分からないかを考え手立てを講じる。
- ④ 担任の力が大事。児童の責任にせず、児童に内容をつかませる工夫をする。

(2) 英語教育における英語絵本の位置付けについて

- ① 英語絵本は英語教育の中の一部であり、全宇宙ではない。英語教育を始める足がかりとして、今回の研究で絵本を選んだのはよかった。今後は新指導要領の中で狙っていくものと合わせ、絵本の役割を見つけていくとよい。
- ② 「絵本を使って何がしたいか」がはっきりすれば、研究で浮かび上がった課題に対して悩まなくてよくなる。

(3) 絵本の選定について

- ① スイミーのように、地の文が難解で、読んでいても分からないものや、少ない情報の絵からやり取りや言い換え等をするのが大変なものは選ばない。
- ② 先生自身の好みを出してよい。視野を広げて様々な絵本を読んでみる。

(4) 絵本の読み方について

- ① 児童は動く物を目で追う。先生は読みながら文字を指でなぞるのではなく、音と意味を結び付けるために、絵を指し示すようにする。
- ② 地の文を読むべき絵本と、読まなくてもよい絵本の2種類がある。
 - ア 地の文を読むべき絵本
 - ・詩のようなリズムがあったり韻を踏んでいたりして、読むと耳に心地よい絵本は、重要な部分だけ押さえて、途中で絵カードを見せたり児童とやり取りをしたりということはせず、リズムが崩れないようにシンプルに地の文を読む。
 - ・やり取りをする場合は、1回目は音を聞かせるために地の文を読み、2回目以降にやり取りをする。
 - イ 地の文を読まなくてもよい絵本
 - ・大事なことだけ、同じような繰り返しの英文に置き換えて読めば伝わる絵本は、必ずしも地の文を読まなくてよい。
 - ・自分の英語力と折り合いをつけて、やり取りをしながら楽しく読む。

(5) 小学校外国語活動について

- ① 小学校では音と意味を結びつける体験が大事である。
- ② 真ん中に、児童の心や思いがある。その周りに音声、その後に文字が来る。
- ③ 受信（インプット）があつての発信（アウトプット）なので、早く言わせたいから、と言わせることから逆算して授業を組み立てるのではなく、「聞いてわかる」体験を大切に、丁寧に進める。
- ④ 音声を暗記させるだけの付け焼き刃の暗記は意味がない。

Ⅲ 研究のまとめ

本年度は、絵本の読み聞かせそのものに主眼を置いて研究を進めてきた。**3 研究内容** (4) 実践例の中で代表的な実践例を3つ述べたように、絵本1冊1冊について、これはどのような話か、どのような読み方をするか、どの学年に適しているか、と検討を重ね、読み聞かせの手法や課題などを明らかにすることができた。ただ、粕谷教授のご指導にもあった通り、絵本は英語教育の全宇宙ではない。あくまで英語教育の中の一つであり、朝の時間にいつもモジュールで行うというものでもない。次年度は、本年度の研究をさらに深め、授業や教材との関連を考えた絵本の活用法を引き続き探していきたい。

また、本年度の2校の研究協力校では、どちらも5年生での実践だったので、低学年や中学年でも取り組み、「英語の絵本活用リスト」に厚みをもたせることで、より小学校の先生方のニーズに沿うものにしていきたい。

最後に、本研究の実施にあたり、東京学芸大学教授粕谷恭子先生をはじめ、研究協力校としてご尽力くださった先生方に、この場を借りて心より厚くお礼申し上げます。

《参考文献》

- アレン玉井光江(2010)『小学校英語の教育法—理論と実践—』大修館書店
- 松本由美(2015)『初期英語教育における絵本の有効活用—児童の自発的応答を引出す「読み聞かせ」の試み—』『玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要』第8号、玉川大学
- リーパー・すみ子(2011)『アメリカの小学校では絵本で英語を教えている 英語が話せない子どものための英語習得プログラム ガイデッド・リーディング編』径書房